

3 地区複合再編案 A

資料 2－1 2

		規模			配置			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
中央地区	第一小学校	①小学校は2校ともかなり規模が大きくなり、クラス替えや運動会などの大きな行事ではプラスになると思われる。 ②生徒数・学級数共にいい ④将来推計以上に人口減少が進んだ場合でも、規模の適正化が確保可能。	①第一小は、2053 年あたりまでは、規模が大きい分、学年内・学校全体での児童同士のつながりは弱くなると思われる。 ①第一小の児童数が、建て替え時から推計人口が出ている2059 年までに児童数が約120 人減となるため、それを見越した設計にする必要がある。 ①施設一体型の中学校が小規模で、運動会など大きな行事の際に物足りなさがある。 ④施設一体型小中一貫校とする場合、体育や部活動などの活動における場所の確保が困難となる ⑤青梅大祭、市民運動会をともに行ってきた日向和田を西部に変更することへの反発も予想される。 ⑤規模は適正だが、数を合わせただけの印象がある。 ⑥通学時間が1 時間を超えるのはどうかと思う。分校とかがあっても良いのではないか。	⑤施設一体型小中一貫校にできない3 地区再編案 A がある理由が不明（一小と一中を分けた理由）。一小・一中に分けないと規模的に無理があるのか？	④西部地区、北部地区は地域内だけで規模の適正化が困難な中では、両地域はそれぞれ小規模特認校として存続するのであれば、通学先の選択性を確保することができるのはメリット ⑤適正だと思う	①御岳山や二俣尾5 丁目から通学する児童生徒がいる場合、小学校も中学校もかなり遠いので、交通手段の選択肢を増やすか、朝の開始時間や冬季の帰宅時間に工夫が必要だと思う。 ①両中学校共に、すべての生徒が同じ小学校からなので、世界が広がらない。 ②中央地区中学校、西部地区小学校共に遠距離のため通学が負担になると思う。 ②和田町と畑中からのバスの本数が少ない。 ③区分が広すぎる ④西部の小学校児童にとって、通学距離が遠すぎる ④小学校を1 小、4 小位置に2 校とした場合、学童の受け入れニーズに対応しきれぬのか疑問 ④他の案と比較してコスト的なメリットが大きくないにもかかわらず、西部地区の通学距離が大きくデメリットばかり感じる ⑥小学校も中学校も通学時間に問題があると思う。スクールバスがあっても厳しいのではないかと思う。		③小中学生の一貫教育ですが、こちらの考えも良いと思います。 ⑤一小は芝生のため、休み時間に遊びやすかったり、サッカーしやすかったりするが、可能な競技に限られるため（体育館も2 つあり、中学校は部活に使用していても、小学校は地域で利用することができる）、地域に2 種類のグラウンドができる。 ⑤学ぶ環境が変わることで、その後の環境変化に備えられる	②小学生と中学生が同じ校舎内で過ごすメリットが分からない。	④義務教育学校ではなく施設一体型の小中一貫教育のメリットは大きくないと考えます。教育効果として一貫教育を目指すのであれば、一部の理系国立大学で大学院まで6 年間一貫教育が進んでいるように、1 人の校長の元で先生も前期課程高学年から後期課程まで一貫通貫の教育が可能となる義務教育学校を目指すべきです。 よって、単なる小中一貫教育なのであれば「施設一体型」のメリットは小さく、「施設分離型」はデメリットにならないと考えます。
	第四小学校	③現第四小学区の児童は、施設一体型の小中一貫校としての教育を受けることが安心してできる。 ④生徒数、学級数は問題なし	③児童数 405 人のため、生徒数190 人で不安定さを抱える。		③第四小としては、現在地に施設一体型小中一貫校が設置され、ありがたい。	③御岳山・二俣尾5 丁目・成木7 丁目・富岡の児童・生徒には、あまりに負担が大きすぎる。	④この案はメリット、デメリットと言うより子供達の通学の負担が大。 2 地区複合案でも書いたが西部と中央に小中一貫校した方が良い	③第四小学校としては、施設一体型小中一貫校としての新しい教育を推進できる。	③第一小・第一中の施設分離型では意識の変換に困難さが出る	④この案だと小中一貫教育と言うよりただ学校を少なくするだけだと思う。 前問でも書いたが西部と中央に小中一体型一貫校が良い。
	吹上小学校	①小中学校は、1 学年の学級数、学校全体の学級数のどちらについても学校活動を実施する上で適正であると考ええる。 ③1 小学校区、1 中学校区、施設一体型小中一貫校いずれも望ましい学校規模を維持できる点				①西部地区および北部地区から中央地区への通学は、山間部からの遠距離通学を強いることや利用する公共交通機関の脆弱性が大きなデメリットとなり、児童、生徒に与える負担は大きく増大すると考える。 ②一中は駅から遠い ③御岳山、二俣尾5 丁目地区から1 小学校、1 中学校への通学および成木7 丁目、富岡1 丁目地区から施設一体型小中一貫校への通学距離が長くなる点	②一中を使うのであれば宮ノ平駅の北側に新規に土地を確保したい。	③施設一体型小中一貫校となるため、行事や交流が活発に行われ、めざす児童・生徒像を共有しやすい点	③施設分離型小中一貫校となることとまり、めざす児童・生徒像を共有しにくい点	①小中一貫校に関しては、義務教育を通じて一貫した教育活動を実践することができることが大きなメリットである。小学校の6 年間と中学校の3 年間を分け隔てることなく継続した中での学習指導計画の立案や児童、生徒の人間関係をより豊かに醸成することが期待できる。また、中一ギャップを防ぐうえでも効果的である。小中一貫校による教育の効果をより発揮することができるのは、「施設分離型」よりも「施設一体型」であると考える。この3 地区複合案 A は同一地区の中に「施設分離型」と「施設一体型」を1 校ずつ設置する案であり、そのような配置がどのような教育効果を生むのか興味深い。
	第一中学校	①適当なバランス ④小中一貫校すべて、学級数は適正である ⑤小中一貫教育になる、学級数などは良い	⑤通学時間が長い。公共交通の本数が少ない所を考えてほしい。		①地域住民（裏宿在住）とすれば、児童、生徒数の増加は喜ばしい事 ④小学生は3 地区複合案 B 案よりましである。			①一小学校区と一中学校区の校舎は分かれるが、結果的に同じ中学校への進学となるので、問題は無いと思われる	④隣り合う地区で、小中一貫と分離型があり、内容的な差がかなり出るのではないか。 ⑤小学校が2 つあるので、学力のバラつきがあるのではないか	
	吹上中学校	②小中学校とも、再編成で適正規模になったので、これでよいと思います。 ⑤吹上小学校③と同様の意見	③2025 年の再編後の施設一体型小中一貫校の生徒は190 人であり不安である。やはり一中との再編が求められる		③吹上中としては、通学に関してありがたい新しい学校の位置である。	①通学を考えるとデメリットばかりな気がする。 親の送迎が増えそう。 ②3 地区再編案 A・B ともに成木小・七小・六中・七中の児童・生徒にとって、通学距離及び、		③吹上中の生徒が将来中央地区施設一体型小中一貫校で学ぶことができるのは、OECD が提唱する AI の時代にどう生きるかの学びを得ることができる。		①施設の面を考えると一体型の方がいいと思う ②小・中一貫教育の趣旨から、施設一体型が望ましいと考えます。

		規模			配置			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
						時間がかかりすぎると思いま す。小規模特認校として存続さ せるのが、望ましいと思います。 ③御岳山・二俣尾5丁目・富岡 1丁目の生徒については配慮が 必要 ④小、中学生、共に通学するに は区域が広すぎる ⑤吹上小学校③と同様の意見				小中一貫校開校前に、一貫校に ついての説明を指導し、小中教 員同士が、十分に話し合うこと が大切であり、必要と考えます。 現在も小中連携を行っています が、「その延長上に一貫校が有 る」との理解ではないことを、 教職員に認識させることが必要 と考えます。

		規模			配置			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
西部 地区	第五 小学 校	④特に音楽/体育/図工（美術）/道徳等でチームや学習他者との共同作業、直接触れ合い会話することが重要な教科に効果が得られる（国が提示する児童生徒数の適正規模値を一定の条件下で期待できる） ⑦一定の人数が集まること、クラス替えができること、集団活動を通し子ども同士での育ちあい、異年齢児のかかわりを期待。	②論外です、企業合併では小さい会社が割を食います、人口の少ない地域の配慮が必要です			②児童といっても小学1年と6年では通学の負担が違います。 ②田舎の子が都会に出てくる発想には反対です ③一部地区の通学時間が長い ④平溝地区：平溝地区：小学児童の通学時間70分とされているが実際は80分程度のうち徒歩66分+公共交通機関4分となり実際に小学一年生の通学は困難かつ危険。 ④御岳地区：ケーブル始発に乗車しても始業時間に間に合わず、非現実的降雪（雨）時は通学に支障が出る場合がある。 ⑤御岳や二俣尾エリアの児童にとっては通学はどうするのか、駅まで保護者が車で送る前提でないといこの案は無理では。路線バスも本数があるわけでもないし、歩くとなると子供は危険。クマや野生動物が頻繁に住宅エリアに入ってきてるのに安全面の対策はどうするのか ⑥通学負担は西部地区再編案A以上にかかるため問題外としたい ⑦通学時間が長く負担が大きい。部活、放課後、友達・家族の時間が少なくなる。公共交通機関も維持できるのか。通学路の整備等の安全制性の確保、スクールバス運行を考えてほしい。	②分校はできないのでは うか。 ⑤御岳山の子は学区外で奥多摩エリアの学校と統合した方が通学時間が短縮できるのでは	④施設一体型/分離型小中一貫校の位置づけとしての再編指針は一定の条件で達成できる ⑤一貫施設の方が交友関係が生まれいいと思う。別々にするよりコストも抑えられる ⑦学校ごとの独自性が持てる	④西部地区再編Bに比較して各校の位置的に近いが、異なる形態の一貫校に近いことでその違いにそれぞれの学校に通う児童/生徒/保護者が混乱あるいは無用な疑問を持つ可能性があり、保護者の期待によっては学区外入学希望が多くなる可能性も考えられる。	
	第六 小学 校	③望ましい規模が長く維持できる。 ⑧小学校:2036年23人で24学級、2050年30人で18学級、2059年24人で18学級→ほとんど変化がないため、少人数クラスなので児童一人ひとりに目が届きやすいと思われる。 中学校：2036年27人で12学級、2059年24人で12学級→ほとんど変化がないため、少人数クラスなので、生徒一人ひとりに目が届きやすいと思われる。		④適正かわからない		①吉野・三田地区、特に御岳山から遠すぎます ①全地区通学時間がかかりすぎ、子どもの負担が多いと思う ①1年生（6才）には遠いです ①広すぎる ②特に御岳山地区および成木地区の子ども達へ、現状を超える負担を強いるべきではない。 再編＝学校の削減である以上、現状よりも何かしらの負担増が生じることはやむを得ないと認識しているものの、あくまでも「義務教育」課程に基づき通学していることを鑑みても、行政として最大限の配慮をぜひともお願いしたい。 ③御岳山の子どもたちは通学時間が更に長くなる。 ③第一小学校はJR青梅駅前なので通学しやすい面もあるが、JR青梅線、奥多摩線は雪、台風、倒木、動物の侵入等により遅延や運休も多い。 ③第一中学校は駅前ではないので、第一小学校ほど通いやすくはないように思う。 ④御岳山に住んでいる人が不便である。小学校低学年は自分で通えない。通学時間が長く、遊びや人間関係構築の時間が保証されないことが心配。送迎する保護者が出てくるので負担が大きくなり、仕事に影響が出るのではないか。さらに少子化が進み、人口減が予想される。 ④成木地区、小曾木地区は山を越えての通学となり、冬場の通学困難が予想される ④山を越えての通学は冬場は難しいのではないか ⑤学区に対して立地距離が不均衡なので、学生輸送手段（運行頻度）の強化が必須。 ⑧長距離通学となり、児童・生徒の負担増が懸念される。特に御岳山と二俣尾5丁目の低学年の通学時間が70分から80分であり、その上、冬場には日没時間が早くなるのでなお負担が大きくなると思われる。	⑤学内行事に伴う保護者参加の場合、来校の際に車を使わざるを得ない。駐車場の是非も含めて検討が必要。		②施設分離型では、正直なところメリットを見出せない。 ⑤地域交流や学習の観点に立った時に対象が広い為、どこの地域に主軸をおくのか。または学年によって分散するか。 ⑧2校舎建設のため、一体型よりも費用がかかると思われる。 ⑧2050年に小学校で6学級減少するので、空教室が出てします。活用方法を	③施設分離校は、学校間の交流、連携を深める取り組みが必要である。
	西中 学校	③学級数は満たしている ④2059年度で、小学校18学級、中学校12学級で、適正規模となっている。 ④2059年度以降も、再編成の心配が少ない。 ⑤児童数が増え、18学級は理想である。生徒数も12学級なら問題ない。 ⑥適正だと思う ⑦児童・生徒数が増えて理想。4小後に設置する施設一	⑤一小的敷地は土砂災害警戒区域であるので、校舎が建設できるのか問題である。	②現第四小学校の位置に施設一体型の小中一貫校を設置するとしているが、当該箇所に約600人規模の、しかも小中学校双方の機能を有する学校の設置が可能なのかについては十分な検討が必要と考える。	④場所的にはかなり東に寄っているが、小学校は拠点駅（青梅駅）及びバス停が近く、通学の利便性が良い。 ④生徒は、日向和田、和田町地区までは徒歩で、梅郷以西の梅郷地区は仲町まで都バスでの通学が可能。 ④築瀬、沢井、三田、御岳、御岳山は、JRで通学。 ④公共交通を利用すれば、身体的な負担は軽減される。	①災害時、子どものひとり困難 ②御岳山、三田地区、北部地域からの距離が遠くなり、小学生の特に校低学年の負担が大きくなる。 ③新第一小学校へ通う生徒のなかで、現在の第五・第六小学校区域の生徒が新第一中学校へ通うにはかなり負担となる。 ④JRを利用する第六小学校の児童の通学時間が、二俣尾ー青梅の10分ほど長くなる。 ④JRを利用する西中学校の生徒の通学時間が、石神前ー青梅の8分ほど長くなる。 ④梅郷の児童・生徒の通学時間が、長くなる。 ④JRでは、動物との接触等で遅延することがある（ケーブルの終電に間に合わないを迎えに来てもらう必要がある）。 ④雪等で計画運休することがある（ただし、頻度はそう多		④中学校では、山間部や市街地からの様々な生活環境から生徒が集まるため、個性豊かな生徒等の出会いがあり、多様性を育てることが出来る。 ④施設分離型であるため、小学校6年生は最上学年となるため、リーダーシップ形成できる。 ④野球、サッカー等の人数を要するクラブ活動等の集団	②西部地区再編案Aの理由から、小学校と中学校を分ける施設分離型では小中一貫校のメリットが生かしきれないと考える。 ③一校が施設分離型となる ④小学校と中学校の情報共有に工夫が必要である。 ④施設一体型でないため、学校行事の負担が軽減できない。 ⑤出身小学校ごとにまとま	③すべての案でもメリット・デメリットはあると思う。子どもの未来を一番に考えて話し合って欲しいです。 ④梅郷と三田地区から、学校が消滅する。

		規模			配置			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
		体型小中一貫校は、規模的に良い。三校（1・5・6小）が集まることにより切磋琢磨になり視野が広がる。			⑤児童は、青梅線に乗れば青梅駅までの通学はさほど問題ではない。	くないと思われる）。 ⑤一小は、土砂災害警戒区域なので問題である。また、道が狭く、消防車などの緊急車両の侵入も不安があり、災害が拡大する可能性がある。一中が青梅駅、宮ノ平駅の間で駅から歩くのが大変。登下校に時間がかかり、体力が消耗して生徒が疲れてしまうと考えられる。 ⑦一小は土砂災害警戒区域に指定されているが、設置できるか不安。一中は、青梅・宮ノ平駅から遠いので、西中の生徒の通学が長くなる。 5・6小、西中の児童生徒の通学時間が長くなる。特に御岳山からの児童への配慮が必要。		活動や運動会等の行事を制限なくできる。 ⑤施設分離型とはいえ、近くに小・中学校があるので、連携は取りやすいと考える。3地区（一小、五小、六小地区）の児童、生徒が集まるので、交友関係など視野が広がる。 ⑥青梅駅周辺に集めるのは良いと思う	ってしまう可能性がある。 ⑦一小と一中の施設分離型小中一貫校は距離が離れており大変である。	

		規模			配置			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
北部地区	第七小学校	<p>④小規模と違い、子ども達にとっては友人も沢山できて良いと思う。</p> <p>バスの本数が少ないので、スクールバスや路線バスの本数を増やすなど考えなければならぬ。</p> <p>⑤20年後くらいの将来に検討を始める時が来るかもしれないと思われる案。現在は考えられない案。</p> <p>⑥大人数による多様性の認識が育つ。</p> <p>⑦北部小中学校の4校及び西部の3校が統合したのちに児童・生徒数がさらに減少し再び編成することが考えられるため、始めから4小学区、1小学区へ統合することで、校舎建て替え費用や今回同様に再編するための人件費を抑えられる。</p> <p>⑧児童・生徒数は適正になる</p>	<p>③数合わせ感が強い、小中は児童生徒だけのものではなく、地域住民にとっても大切な場所であり、親だけでなく一緒に成長を見守る場所</p> <p>⑤今の段階で3地区複合案の検討を行うことは児童・生徒数の数合わせとしてはあり得るが、この案を公表すること自体が青梅市のシティブロメーション上では大きなマイナスとなる。吉野、沢井、小曾木、成木からは学校をなくす案であり、青梅市に住居を移動することを考える可能性がある若者は学校への距離を気にするため、青梅市は教育行政に力を入れない市であると見られてしまい、青梅市全体としての児童・生徒数が想定よりも減少してしまうことにつながりかねないと心配している。</p> <p>⑥教育にムラができる。できない子のフォローが希薄になる。</p> <p>⑦北部・西部ともに小中学校がなくなること、地域全体の早期の衰退につながり更なる人口減少になる。</p>		<p>⑤20年後くらいの将来に検討を始める時が来るかもしれないと思われる案。現在は考えられない案。</p> <p>⑦バス通りから程近い家庭にとっては直通のため現在の小学校への通学と変わらない。中学生については定期支給があるのであれば特に問題はないと思います。</p>	<p>③青梅市全体で集中するイメージで、市の成長がストップし、人口減少化が進むと思われる。</p> <p>④徒歩では通学できないが、路線バスに乗車すれば15～20分程度で通学可能だが、本数が少なすぎるので、部活動ができるか心配。</p> <p>⑤現状では、小曾木地区に学校がないことが大きなデメリット。施設一体型の小中一貫校とする試行地域には小曾木地区が最適と思われる。場合によっては、市民センター機能も取り込んでの試行を行い、青梅市全体の施設維持予算の低減にもつなげる取り組みに進めて欲しい。</p> <p>⑤山林も田畑もある地域での教育の素晴らしさを小曾木地区の学校が実践してくれているにも関わらず、規定の小規模特認校のバス路線と山林教育を理由に小曾木地区の学校をなくすことは現時点ではデメリットしか感じない。</p> <p>⑤学校施設数を減らすためには第一小、第一中も施設一体型が望ましいのではないか。</p> <p>⑥徒歩通学ができない。送迎できない家庭もある。</p> <p>⑦成木小（旧9小地域）や小曾木（厚澤地域）から4小学区へは通学時間を要する。（西地区に比べれば近いとはいえ）また、夏季は良いが冬季（10月下旬～3月上旬）家庭出発・帰宅時に周囲が暗い状況となる。特に厚澤地域については薄暗い（街灯が少ないがホテルなど自然環境を考えると街灯は増やさない方が望ましいと感じています。）</p> <p>※資料では富岡から30分（徒歩＋公共交通）となっているが、厚澤地域はバス通りまで徒歩20分はかかります。</p> <p>⑧通学時間が長いと感じる</p>		<p>⑤20年後くらいに検討開始の必要性があれば検討を開始するレベルと感じる。現在は考えられない案。</p> <p>⑥多様性</p> <p>⑦同一施設で9年間通して学習ができる。七小で行っている縦割り班活動と同様に下級生の成長に役立ち上級生は責任感が宿ること。</p> <p>⑦9年間通して環境の変化が少ないため中1の1学期（夏休み明け含む）での不登校生徒数が減少する可能性がある。</p> <p>⑦施設分離は特に中学生にとって部活動や高校受験時に集中しやすい環境となる。</p>	<p>③数合わせ感が強い、御岳・二俣尾の70分通学はありえない</p> <p>⑤児童生徒数があまり多くなると教育効果は低下を招く。</p> <p>⑥人数が多すぎる</p> <p>⑦北部については通学時間が長くなるため、自宅学習時間にも影響が出る可能性がある。小学生は学童（タヤケランド含む）あり方、習い事の時間や中学生は部活動の時間や特に3年生の高校受験に対する学習塾に影響が出る可能性がある。（小中学生ともに帰宅し習い事へ行くため相当な時間を要する。軽食など摂る時間がないなど）</p>	<p>④施設一体型よりは、分離型の方が、小中のメリハリがついていいと思う。</p> <p>合同行事などもあると思うので（音楽会や避難訓練など）、そのような時に施設一体型のメリットがあるのか</p> <p>⑧施設一体型にして、縦割り班を作り、勉強以外で交流をした方がいいと考える。施設分離型では、そのことは難しいと感じる。試験的に運営したらいいいと考える。</p>
	成木小学校	<p>①あまり生徒を詰め込みすぎな気がします。</p> <p>①市内の学校は人数が多すぎでは？</p> <p>③適正規模、クラス替え、友達が多くできる。施設一体型の小中一貫校ができる。全てが新しい施設の学校ができる</p> <p>④規模は満たされている。</p> <p>⑤規模的にはちょうど児童に良い規模で、小中一貫であれば理想的である。</p>	<p>③急に大規模校になるので戸惑う子どもが出る</p>		<p>①遠方の生徒が大変すぎるのでは？</p> <p>③30分程度の通学時間なので、通学は特に問題ない。多くの友達の中で成長できることはいいので、施設一体型小中一貫校はいいと思う。</p>	<p>③成木・小曾木地区から学校がなくなるのは、地域の益々の衰退に繋がらないか心配</p> <p>④公共交通での通学は無理があると思う</p> <p>⑤公共交通では、あまりに本数が少ないので、スクールバスは必要</p>			<p>④人数が多くなる文、いじめや不登校が増えるのではないかと</p>	<p>③やるのであれば施設一体型がいいと思う</p>
	第六中学校	<p>⑥小規模と違い、子ども達にとっては友人も沢山できて良いと思う。</p> <p>バスの本数が少ないので、スクールバスや路線バスの本数を増やすなど考えなければならぬ。</p> <p><u>⑦第七小学校⑤と同様の意見</u></p> <p>⑧規模は満たせると思う</p>	<p>④児童数・クラス数を文科省推薦の規模は暫く確保出来るが、小規模特認校により、地域の学校に馴染めず、現在七中に通っている一定数いるであろう児童をどうすべきかの課題は残る。</p> <p>また、少人数で手厚く教育を受けられるメリットがなくなってしまう。（当然一クラス30名全員には目は届かないが、少人数であれば目が届き児童のフォローもしやすいのではないかと）</p> <p><u>⑤第七小学校③と同様の意見</u></p>		<p>④小曾木地区単体で考えれば、公共交通機関での通学も可能ではある</p> <p><u>⑦第七小学校⑤と同様の意見</u></p>	<p>①小中学生の通学時間が1時間以上かかる地域があるのは望ましくないと思う。</p> <p>④成木地区を考えた場合は公共交通機関のみでの通学は不可であり、スクールバスの運用がやはり必要となってくる</p> <p><u>⑤第七小学校③と同様の意見</u></p> <p>⑥徒歩では通学できないが、路線バスに乗車すれば15～20分程度で通学可能だが、本数が少なすぎるので、部活動ができるか心配。</p> <p><u>⑦第七小学校⑤と同様の意見</u></p> <p>⑧登校に70分以上は酷では、近ければ勉強にも遊びにも時間が使える</p>		<p><u>⑦第七小学校⑤と同様の意見</u></p> <p>⑧大人が動かしやすい</p>	<p><u>⑤第七小学校③と同様の意見</u></p> <p><u>⑦第七小学校⑤と同様の意見</u></p> <p>⑧本来に一体型が良いのか子供に聞く必要があるのでは</p>	<p>④日本経済新聞によると、1994年以降少子化対策に投じた金額が66兆円超にもかかわらず、出生率に増加が見られない以上、税金の増収は見込めるはずもなく、施設維持費を考えると、『施設一体型』以外は考えられない</p> <p>⑥施設一体型よりは、分離型の方が、小中のメリハリがついていいと思う。</p> <p>合同行事などもあると思うので（音楽会や避難訓練など）、そのような時に施設一体型のメリットがあるのか</p>

		規模			配置			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
			⑦第七小学校⑤と同様の意見							
	第七中学校	⑤人数がいるので部活など、選択肢が増える、２クラス２０人くらいで丁度よい。	⑥人との出会いが少なくなる。９年間同じメンバー メリット：中学進学の際、生徒の流出減が少しは見込まれる。施設小中一貫校なので全校のやる気。本気が出ると凄い		⑤３０分位の通学であれば負担も少なくよい	②公共交通を使う前提になっていますが、現状「都営バス」の利用の場合、学校終了時刻などに合わせての運行になっておらず、学校の終了時刻によっては、60～90分の待ち時間が発生します。この点に関して、どのように考えていくかは必要です。また、通学バスを手配するにも、バス乗車時間が妥当なのかの検討も必要。教育は国の基本であり、将来の投資です。教育を受けるのは権利でも、受けさせるのは義務なので、通学に応じて、小学校・中学校の適切な通学時間として今後も、通学バスの手配・都営バスなどへの協議が必要で継続していただきたい。 ⑤御岳山等は１時間を超える通学は負担 ⑥生徒数増が見込まれる、学区の地域が広すぎる。通学等色々問題が浮上するような気がする		①北部の生徒・児童数減少は顕著で施設一体として学ぶ方が、行事や学習においても一緒に出来ることがあったり、縦のつながりも大切にしていけると思う。 ⑤施設分離型は中学にあがる時に新しいスタートができる。新しい環境変化によって刺激を受けて成長できる。	①分離として当初は良くても、いずれくるさに人口減少の際、また統合となるかもしれないなら将来を長く見据えて一体型の方が良いと思う。 ⑤施設分離型は、小中の交流がないので縦のつながりが弱い	